



再掲載



7月11日発売

バルトの主著《教会教義学》は20世紀神学における最も重要な貢献の一つだが、邦訳で36巻に及ぶ膨大で複雑な内容は、通読はおろか全容を見通すことも困難である。本書は、生涯にわたり《教会教義学》に取り組んできた著者が一般読者のために試みた平易な道案内であり、バルト神学への無二の入門書ともなっている。

寺園喜基 [著]

カール・バルト 《教会教義学》の世界

自由で広やかな神の恵みを描く！

◆四六判・360頁・定価3080円

目次

序章 『教会教義学』に至るまで

第一巻 神の言葉についての教説
『教会教義学』への序論

- 1 神、語り給う／2 三位一体の神—啓示の根拠／3 言葉の受肉—イエス・キリストにおける啓示の出来事／4 聖霊の注ぎ—人間における啓示の受容／5 聖書—啓示の証言／6 説教—教会に委託された啓示

第二巻 神についての教説『神論』

- 1 神の認識／2 自然神学の否定／3 神の現実性／4 大いなる神のドラマ／5 福音の総計としての神の恵みの選び—予定論／6 神の戒め—神論における倫理学

第三巻 創造についての教説『創造論』

- 1 創造者なる神を信じる／2 創造と契約／3 人間の創造／4 神の摂理—創造者なる神の被造物への配慮／5 虚無的なもの／6 天使論—天の国・神の使い・敵対者
- 7 創造論における倫理学の課題
- 8 神の前での自由／9 交わり

の中での自由／10 生への自由／11 限界の中での自由

第四巻 和解についての教説『和解論』

- 1 僕としての主イエス・キリスト
 - 1 和解論の構造／2 神の子の従順／3 父の判決／4 人間の傲慢と墮落としての罪／5 人間の義認
 - 6 聖霊とキリスト教団の集まり
 - 7 聖霊とキリスト教団の集まり
- 2 主としての僕イエス・キリスト
 - 1 人の子の高擧／2 王的人間／3 御子の訓令／4 人間の怠慢と悲惨としての罪／5 人間の聖化
 - 6 聖霊とキリスト教団の建設／7 聖霊とキリスト教的愛
- 3 真の証人イエス・キリスト
 - 1 真の証人イエス・キリスト／2 生の光／3 イエスは勝利者／4 御霊の約束／5 人間の虚偽と断罪／6 人間の召命／7 聖霊とキリスト教団の派遣／8 聖霊とキリスト教的希望
- 4 和解論における倫理学『断片』
 - 1 洗礼論／2 「主の祈り」の講解

● 5 月刊行

ユダヤ人も異邦人もなく

パウロ研究の新潮流

山口希生著

◆四六判・定価 2475 円

信仰義認論を最重視する従来のパウロ理解に異議を申し立て、新約学界で激しい論議を呼んでいる「パウロへの新しい視点」(N P P)。その起源から最新の議論までをカバーした本邦初の本格解説書。



● 4 月刊行

コヘレトの言葉

人生を生きよ

W. リュティ著／宍戸達訳

◆四六判・定価 2310 円

コヘレトをニヒリストとしてではなく、神への信仰に立って自らの人生を生きることを勧める人物として読み解く。傑出したスイスの説教者が 1951 年から翌年にかけてベルンで語った 12 編。([『伝道者ソロモン』を改訳・改題])



● 3 月刊行

交差するパレスチナ

新たな連帯のために

在日本韓国YMCA 編

◆四六判・定価 2640 円

注目を集めた連続シンポジウムの待望の単行本化。〈交差性〉の概念を手掛かりに考える。寄稿者＝ニダル・アブズルフ／金城美幸／北川真也／阿部小涼／保井啓志／中村一成／太田昌国／役重善洋／早尾貴紀。



● 3 月刊行

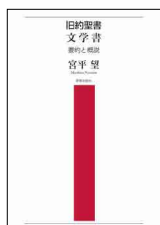
旧約聖書 文学書

要約と概説

宮平望著

◆A5 判・定価 2090 円

好評の旧約解説シリーズ第 3 弾。旧約の複雑多様な世界を読み進めるための絶好の手引き。本巻はヨブ記、詩編、箴言、コヘレトの言葉、雅歌を扱う。次の「預言書」で全 4 巻完結。



最上光宏著

命に通じる道 「山上の説教」講解

牧会者として「世のための教会」の形成に心血を注いできた著者が、「今いかに主に従うか」という主の恵みへの応答の課題を「山上の説教」の22回の講解説教を通して考える。

小B6判・予価16000円

関口安義著

内村鑑三 闘いの軌跡

内村鑑三の激動の生涯を実証的な調査に徹して描き切った評伝大作。著者は芥川龍之介研究から出発し、芥川人脈に連なる多くの知識人の評伝をものしてきた。本書は2019年に上梓した『評伝久内原忠雄』に次ぐ著者のライフワークであり、遺作となった。

A5判・予価8000円

マシュー・ホケノス著／穂田信子訳

マルティン・ニーメラー ヒトラーに逆らった牧師 「仮題」

アメリカ人教会史家が冷静な筆致で著した最新の評伝。第二次大戦ではUボートの艦長として戦い、牧師に転身した後もなおナチヨナリストで、当初はナチに共鳴したが、やがて批判に転じ、戦時下は強制収容所に囚われ、戦後はエキメニカルな場で活躍した激動の生涯。

四六判・予価35000円

フリッツ・リーマン著／赤坂桃子訳

不安とは何か その四つのかたち 「仮題」

不安は私たちの人生の一部である。不安にうまく対処し、バランスの取れた人生を生きるためにはどうすればよいか。本書は深層心理学的な視点から不安を四つの類型とそれに対応するパーソナリティに分類し、より良き対処法を豊富な例証と共に記述。一九六一年の初版以来今日まで一〇〇万部近くを売り上げた戦後ドイツのベストセラー。

四六判・予価35000円

● 5～6月に出た本と雑誌

日本におけるキリスト教 フェミニスト運動史

富坂キリスト教センター編 1970年から2022年まで
フェミニスト運動の受容と展開を詳細な年表・解説・コラムで回顧。また4人の女性の貴重な証言を付す。さらにメディア表象から異性愛規範への抵抗まで6つの重要課題を論者が考察。

◆四六判・定価2750円

神と上帝

金香花著 聖書訳語論争への新たなアプローチ
キリスト教の神を「神」と訳すか「上帝」と訳すか――。19世紀中国の訳語論争の本質を、朝鮮語と日本語における聖書翻訳と比較しつつ、信仰の伝達と意味の翻訳の両面を手掛かりに考察する。

◆A5判・定価4400円

第一ペトロ口書を読む

石田学著 釈義と説教
迫害に苦しむ初代教会へのメッセージを釈義をふまえて説教的に展開する見事な実例。

◆四六判・定価2200円

福音と世界

◆定価660円

7月号 破局と希望 「責任編集」福嶋揚

寄稿者：光延一郎、左近豊、出口剛司、堀江宗正、菊地了、福嶋揚／新連載 今高義也／好評連載 後藤里菜、飯田華子、金歌昊、長尾優、C・J・サンダース&A・ヤバー、山崎ランサム和彦、山口陽一、勝村弘也

●これを書いて六月上旬、入管法改正を阻止するため、弛むことなく抗議が続けられています。「テロリストや日本のルールを守らない人など、受け入れることが好ましくない外国人については、入国・在留を認めることはできません」（出入国在留管理庁のサイトより）というそれじたい差別的な言い分のもと、難民申請中の強制送還などを盛り込んだこの改正案の邪悪さについては、すでに周知の通りでしょう。そうしたなか、入管職員による被収容者の制圧と強制送還のさまを映した映像を目にしました。その冒頭、送還されつつある方はこのようにうめくのです。「助けて私：聖書に本当に：神様いる知らない」。神様は「みんな助ける」と必死で伝えるその方に、職員はむべもなく「神様いるって書いてたの？」「お願いするんじゃないの」と返し、その後は直視に耐えない暴行の場面が続きます。わたしは、同じクリスチャンであることが自動的に共感や連帯を保証するわけではないと思っています。その一方、キリスト教において培われてきた解放の思想的・実践的伝統を自分も担わねばならないという意識は曲がりなりにも抱いてきました。ですが、そうした自意識は先の映像によって無残に粉砕されます。何が解放か、と。無論、入管

の制度的・物理的解体なくして解放などありえない。けれどそのうえで、仮に解放が訪れるのだとして、そのときあの方は助かるのでしょうか。解放とは、いったいなんなのでしょうかか。（堀）

●来年の渡辺禎雄版画カレンダーの作品が決まりました。一九八四年の「よきサマリア人」です。主イエスが隣人愛の例として語られたこの譬え話（ルカ一〇章二五―三七節）は、分断と格差、偏見と憎悪がますます広がる今日の世界で、古びるどころか現代性をいっそう増しているのではないのでしょうか。この作品の地目は引く鮮やかな黄色です。この男の思想と行動に注目せよ！と呼びかけているかのような画家の思いが偲ばれます。なお価格を二〇年据え置いて参りました



が、昨今の材料費の高騰の折から税込六六〇円に価格改定させていただきます。ご理解をお願いします。

（小林）

福音と世界

2023年
8

特集：戦争の時代に平和を問う

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料（送料共）8760円

積極的な平和創出の聖書の根拠——浅野淳博
足元から始める平和——J・H・ヨルダーと
S・ハーフワースの神学——徳田信

一五年戦争期のバプテスト教会の

苦悩と葛藤から平和を問う——山中弘次
戦争への「反対」と「協力」のあいだ——日本
軍のカトリック宗教官撫班——石川明人

民の記憶から考える東北アジア——朴賢淑

関西学院高等部「必修選択授業
ピーススタディ」実践報告——松隈協

【好評連載】

◆八木重吉の聖書2………今高義也

◆神と「女性的なるもの」を辿って3——後藤里菜

◆グレート小林と3人の女4………飯田華子

◆私は告白する、私の神を5………長尾優

◆地域から考える在日朝鮮人史と教会史5………金耿昊

◆教会におけるマイロケレシヨン16——サンダース、ヤーバー

◆「日本のキリスト教」を読む19………山口陽一

◆新約釈義 ルカ福音書20………山崎ランサム和彦

◆古代イスラエル文学史序説30………勝村弘也